

果が企業化、事業化する具体的事例を地域経済界に示したことの波及効果は大きい。

今後、広島県産業科学技術研究所を中心として推進される「知的クラスター創成事業」をはじめとする各種施策により、研究開発型企業のさらなる集積を図りたい。

6．中核機関活動の報告

6-1．広島県産業科学技術研究所の運営

中核機関は、広島県からの委託に基づいて、コア研究室である広島県産業科学技術研究所の管理運営を行い、地域における基礎的・先導的分野の研究開発の推進に貢献した。

6-2．科学技術振興基金の造成・運用

地域における計画的・継続的な科学技術活動の施策展開を推進するため、安定的・恒久的な自主財源として、広島県や地元企業からの出捐金による「広島県科学技術振興基金」の造成及び運用を行っている。

同基金の運用益を活用して、組織再生プロジェクトをはじめとする広島県産業科学技術研究所の研究成果に基づく特許出願など、知的財産権の取得等に要する経費を負担している。

6-3．広島起業化センター「クリエイトコア」の運営

広島県産業科学技術研究所に隣接するインキュベーション施設「広島起業化センター『クリエイトコア』」を整備し、低廉な料金で貸事業場を提供するとともに、各種の支援サービスを行うことによって、研究成果に基づく事業化、企業化の支援を図っている。なお、組織再生プロジェクトで蓄積された技術を基に設立されたベンチャー企業「株式会社プロフェニックス」は、同施設に入居している。

6-4．地域研究開発促進拠点支援（RSP）事業

平成8年度からRSP事業（ネットワーク構築型）を開始し、新技術コーディネーターを中心に産・学・官の研究情報の交流等のネットワークづくりに取り組んだ。

さらに、平成11年度からは、研究成果活用型に移行して、広島中央サイエンスパーク内に「産学連携推進センター」を開設して、科学技術コーディネーターによる広島大学地域共同研究センターとの一体的な活動により、地域の研究開発に係るニーズ、シーズの調査・育成に取り組んでいる。

なお、この事業により、組織再生プロジェクトの研究シーズのうち、プロテオーム解析に係るものを発展させ、「戦略的権利化試験事業」及び「緊急共同研究プロジェクト」として実施された（平成11～12年度）。

6-5．「サイエンスネットひろしま」の運営

平成10年2月に設立された研究交流組織「サイエンスネットひろしま」を運営し、ホームページの開設を通じて相互の交流や情報の共有化を行うなど、地域の研究者の連携を図っている。登録会員数約1,200名